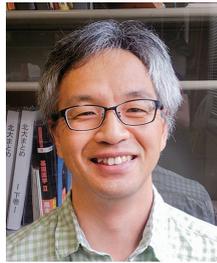


帯広畜産大学同窓会報

第24号 平成29年8月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

帯広畜産大学産業動物臨床棟の紹介

帯広畜産大学 獣医学研究部門
部門長 松井基純



平成27年10月より、帯広畜産大学では、産業動物臨床拠点としての役割を担う産業動物臨床施設群の中核をなす、産業動物臨床棟の運用を開始しました。

産業動物臨床施設群は、産業動物臨床棟、動物・食品検査診断センター、病態診断棟および原虫病研究センターからなり、これらの施設を渡り廊下で結ぶことで、各施設で実施される臨床診断、臨床検査、病理検査、毒性検査を一連の流れで行い、有機的に連携させることで、高度な診断治療およびそれらの実務教育を行うことを目的としています(写真1)。

最新の設備を有する産業動物臨床棟と動物医療センターでの診断・治療に加え、病態診断棟の機能を生かして病気を知り理解することで、高度な診断と治療を行っています。さらに、最先端の研究に裏付けられた高度な検査・診断技術を持つ、動物・食品検査診断センターと原虫病研究センターが、病気の原因を探り対

策を図るとともに、動物とその生産物の安全性を保つという形で、生きた動物への診断・治療を強力に下支えています。このように、産業動物臨床施設群における各施設が連携することで、診断・治療・予防・対策について一連の流れを持って学ぶ臨床教育拠点を形成し、国内だけでなく、国際的に通用する高度な専門知識と技術を有する獣医師を育てています(図1)。

産業動物臨床棟は、機能強化事業「食と動物の国際教育研究拠点の形成」に基づき、本学が北海道大学とともに設置している共同獣医学課程において国際水準

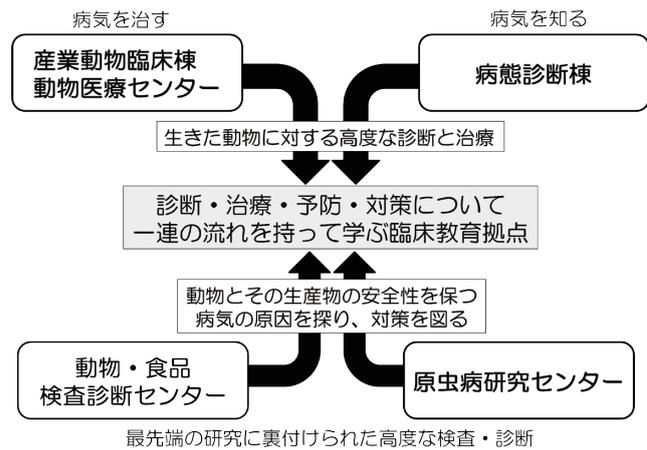


図1 産業動物臨床施設群の連携



写真1 産業動物臨床施設群(中央の建物が産業動物臨床棟)

の獣医学教育の実施し、その教育課程が国際通用性を持つとして認知されるべく、欧州の獣医学教育評価機関（EAEVE）からの国際認証を取得するために必須の施設として設けられました。

産業動物臨床棟は、2階建て延べ床面積が3,570平方メートルの施設で、1階は産業動物の臨床教育および診療施設であり、臨床講義室、馬および牛の手術室、

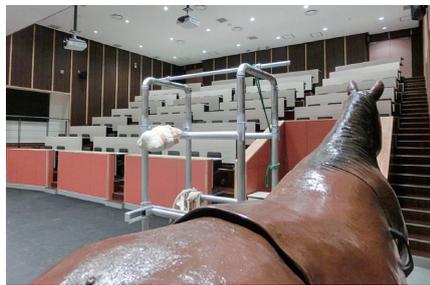


写真2 臨床講義室

麻酔・覚醒室、CT検査室、MRI検査室などが完備されています。2階は教員オフィス、実験室および学生ルームからな



写真3 馬手術室



写真4 牛手術室

の講義が可能となっています。また、通信システムにより、北海道大学との相互の通信講義が可能であり、両大学相互に講義を提供しています。

手術室は、馬（写真3）と牛（写真4）でエリアを区分し、検査診断や手術以外の処置を行う診療処置室も各手術室前室に位置しており、診療エリアを馬エリアと牛エリアとで2分する形となっています。

麻酔・覚醒室は、麻酔の導入時や覚醒時に事故のないように壁がクッションに覆われ、さらにモニタリング用の監視カメラも設置されています。

CT検査室（写真5）およびMRI検査室は、大動物の撮影を可能にするために、牛や馬を乗



写真5 CT検査室

せた架台ではなく、撮影装置自体が移動するように整備されています。また、これらの機器は、伴侶動物の検査診断にも使用されています。

産業動物臨床棟の西側には、入院施設である産業動物飼育棟があります。そこには、学外農家などへの往診に使用する診療車（写真6）が



写真6 モバイルクリニック（往診）用診療車



写真7 学外農家での臨床実習（子牛の診療）

3台整備されています。現在、近隣の酪農家、肉牛生産農家、重挽馬生産農家、乗用馬飼養農家などへ、往診に出向いています。また、これらの農家への検診は、学外での臨床実習プログラムとして、実践的な教育の場（写真7）となっています。

産業動物診療科の診療では、「ヒトの食の安全を守り、畜産業や地域産業の発展を獣医療によって支える」ことを目的として、地域の産業動物獣医療との連携を目指しています。診療科は、馬、牛の診療および特殊な検査と診断に分かれています。馬では、外科、繁殖科、産科・新生子科の診療を行っています。牛では、周産期疾病と子牛の健康管理および蹄の管理を行う牛群検診、定期繁殖検診、2次診療として主に外科を対象とする専門外来の診療を行っています。さらに、大学の機能を生かした特殊な検査による診断支援も行っており、X線検査、CT検査、MRI検査、超音波検査、内視鏡検査を用いた画像診断による診断支援や内科系難診断疾患の出張検査および病理診断などによる診断支援により、地域の産業動物獣医療の発展への貢献を目指しています。診療活動については、以下の動物医療センターホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

<http://www.obihiro.ac.jp/~hospital/index.html>

以上に述べましたように、産業動物臨床棟をはじめ、産業動物獣医療教育の充実を目指した施設整備は大きく進み、旧動物病院とは大きく様変わりを行いました。

同窓生の皆様には、本学を訪れる際に、是非、産業動物臨床棟に立ち寄っていただき、現在の獣医学部が、どのような環境で獣医学を学んでいるのか知っていただきたいと思います。なお、見学を希望される方は、大学へ事前連絡をいただけますと幸いです。

会長挨拶

帯広畜産大学同窓会会長
砂川敏文
(昭和45年草地)



長期的な国民の意識に関する調査（統計数理研究所の「日本人の国民性調査」）に、「生まれ変わるとしたら男がいいか女がいいか」という設問があります。

男性は一貫して「男がいい」とするものが9割程度を占めているのに対し、女性の方は大変化です。かつては「男がいい」とするものが6割以上の多数派でしたが、50年の間に7割以上が「やっぱり女がいい」と答えるようになりました。大逆転です。楽しい人生を送れるのは女の方だと思える社会になってきたということでしょう。

近頃、「生き生きとして、快活に笑っている女性が多くなったなあ。」と感じるにつけ、なるほどと思わせる調査結果です。女性が元気で美しく幸せな様子を見るのは、男性にとってもうれしいことです。畜大生も女性が多数派になって久しいのはご承知の通りです。

卒業後の活躍の場も、専門を直接生かせる分野はもちろんですが、間接的に関連する分野や、まったくの異分野だが畜大で培った感性を生かして行ける場など大きく広がっています。都市民と農業の今までにない出会いの場を提供する会社を興したり、アニメ作家、小説家、画家や陶芸家として活躍する等、多彩です。以前からそういう事はあったわけですが、最近特に目立つように思われます。

また、ケニア、マダガスカルなどアフリカ13か国からの留学生が、文化交流活動、お互いの研究発表の場、講師を招いての勉強の場として「アフリカ オビヒロリサーチ ネットワーク」という会を立ち上げたそうです。アフリカにある3か所の支部は畜大同窓会の支部に発展するかもしれません。ブラジルやミャンマーなどの海外支部の仲間が増えるのでしょうか。このような状況は今後とも続くと思われますので、同窓会の有り様や運営などにも工夫が必要になってくると考えています。

卒業生に再び大学に足を運んでもらい、同窓生や在学生、教職員との交流を深めるとともに大学の近況を紹介し、畜大への理解をさらに深め、母校愛を一層醸成するための「ホームカミングデー」を毎年開催するため、具体的な検討が進んでいます。学科クラスやサークル、寮の同室などの集まりをお持ちだと思います。何年かに一度は帯広で開催されてはいかがでしょうか。日程を「ホームカミングデー」に合わせ、懐かしいキャンパスを訪れるのも一興かと思えます。今年は10月の大学祭に合わせて開催されます。

同窓生の皆さんには、畜大基金の充実のためにご支援をお願いしています。おかげさまで、従前よりはるかに多くの方のご協力がいただけるようになってきました。会員の方のご理解に改めて感謝を申し上げますとともに、今後も一層のご配慮をいただけますようお願いいたします。以上

大学の近況、リベラル アーツ講演会そして ホームカミングデー

帯広畜産大学長
奥田 潔
(昭和52年獣医)



平成16年4月に全国の国立大学が法人化され、自ら作成した6年毎の第1期ならびに第2期中期目標・中期計画を達成しながら、本年は第3期中期目標・中期計画期間の2年目を迎えています。本年6月に文部科学省から第2期中期目標期間における総合評価の結果が通達され、教職員の努力の結果、『教育・研究・業務』すべての項目に関して「良好」または「概ね良好」の評価を受けることができました。また、文部科学省の本年度運営費交付金重点支援方針では、第3期中期目標・中期計画に関する本年度計画の妥当性を基に配分額が決定されることになり、各国立大学は、「地域の特殊性を活かした教育研究」「特色分野の教育研究」「世界的に卓越した教育研究」という3つの枠組みの中から一つを選択し、その枠組みの内でも評価されることになっていました。本学は、「地域の特殊性を活かした教育研究」すなわち、『人材育成や地域課題を解決する取り組みなどとともに、強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進する大学』という枠内で評価されることを選択し、同枠で評価されることを選択した全国55国立大学中3番目の高い評価を受けました。これまでの実績を背景に、着実に計画を実施しているところです。このように高い評価を受けている本学ですが、他の全ての国立大学と同様に財務状況は極めて厳しいのが現状です。昨年度から、同窓会にもお手伝いいただきながら、教職員、同窓生を中心に学生修学支援（授業料等免除、給付型奨学金）として、寄付（基金）をお願いしてきています。「基金・広報戦略室」からお願いが行くかと思いましたが、大学の現状をご理解の上、どうか宜しくご協力くださいますようお願いいたします。

本年入学式後、ノーベル賞学者小林誠先生（素粒子物理学者）をお招きし、帯広市民文化ホールにおいて本学主催の「リベラルアーツ講演会」を初めて開催しました。「リベラルアーツ」とは、広い意味での教養と言えるかと思えます。本学で得られる専門分野の知識や技術のみではなく、多様な人々の考えや文化に触

れ、多種多様な人々や文化を受け入れられる、幅広い人間になってほしいという思いから、また、同じ異分野の話聞く機会を作るのなら「ノーベル賞学者」に来てもらおうと企画しました。平日でしたので在校生も教職員も参加できるよう全学休講とし、市民の方々にも開放しましたところ、1,500名収容可能な会場がほぼ満席となりました。一般的になじみの薄い、素粒子物理学の話ということでどうなることかと心配しましたが、新入生、在校生、市民の方々からも多くの質問があり、「アカデミックな雰囲気味わうができた」、「異分野の話を久しぶりに聞けてリフレッシュできた」などと高い評価をいただき、期待以上の講演会となりました。来年度も「ノーベル賞学者」に来ていただき講演会を開催する予定です。同窓生の皆様も時間が許せば是非ご参加頂ければと考えています。

昨年度は全国各地の同窓会に出席し、皆様と語り合い、本学に対する皆様の熱い想いを肌で感じてまいりました。本年も時間の許す限り全国で行われる同窓会に出席させていただき、大学の近況等についてお話したいと思っております。同窓会に出席して必ず伺う話が、「大学へ行って昔の学び舎や寮を訪問したい。訪問時に学内を案内してくれるシステムを作ってくれないか」「青空の下、畜大でジンギスカンを食べたい」という要望です。それらの要望を受け、本年10月7日（土）に「学内の見学」、「寮の見学」、「研究内容の紹介」、そして最後は同窓会より寄贈された建物である「逍遙舎」を中心とした「昔ながらのジンギスカン」を味わっていただく「ちくだいホームカミングデー2017」を開催します。この日は大学祭も計画されており、活気ある学内になっていると思います。「ちくだいホームカミングデー」の案内は別途、基金のお願いとともに「基金・広報戦略室」から送らせていただきます。皆様のご出席を心よりお待ちしております。



同窓十勝会の近況について

同窓十勝会会長
西 田 讓
(昭和51年草地)



平成27年10月の帯広畜産大学同窓十勝会の例会において、砂川敏文前会長の後任として指名されました、西田讓です。また新たに、筆頭副会長に三津原勝（昭和55年工学）、幹事長に小池寿（平成元年環境）、事務局長に土田勝一（平成13年環境院）が選任されました。ご挨拶が遅くなりましたが、よろしくお願ひします。

同窓十勝会は平成10年2月に結成され、青春時代を畜大で過ごした十勝在住者同士が相集い、親睦を深めるため酒を酌み交わすことを大きな目的の一つとしています。もう一つの目的は母校畜大の発展に寄与することです。

昨年2月に開催した役員会では、長澤前学長と奥田新学長をお招きして、慰労と歓迎の酒を酌み交わしました。奥田学長とは碧雲寮やクラブ（空手部と剣道部）で親交があったので、大変懐かしく酒も格別でした。

また、10月の役員会では、奥田学長にご出席いただき、畜大の大学改革の取り組みと基金についてお話をさせていただきました。平成17年の同窓会報において、当時の同窓十勝会会長の石和也さんが、「法人化された国立大学ではありますが、今後も国からの運営費交付金による財政処置は続くと思われまゝ。ただし、その額は年々減少していくと思われまゝ。まして、当大学のような地方の小規模大学は財政的には大変な苦勞があるのではないかとと思われまゝ。」と、将来の大学運営を心配され、帯広畜産大学後援会への個人寄附を呼び掛けられました。学長のお話から、畜大は様々な経営努力に懸命に取り組んでおり高い評価を受けてはいるものの、まさに、石さんが危惧したとおりの大変厳しい財政状況であることが分かりました。役員会では、当会を構成している十勝管内の市町村単位や職域単位などのOB会に、畜大の現状と基金への協力について説明依頼することを確認しました。その後、各役員が所属組織において取り組みをすすめています。一人でも多くの皆さんが基金の趣旨に賛同いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

今後とも地元同窓会としての強みを発揮して、母校発展の力になればと思っています。

オホーツク支部の近況

オホーツク支部長
吉 次 茂 昭
(昭和53年工学)



今年の支部の総会・懇親会は、場所を北見に移し、11月18日（土）午後2時より、ホテル黒部で行う予定です。前回までは、全国の支部でも珍しく泊りでしたが、今回から日帰りとなります。

これでは紙面が余りますので、最近大学に用事が出来て、年に数日は訪れるようになって感じた事を一言。まず、大学周辺と校舎が小奇麗になり、学生も女子が増えたせいか昔よりも爽やかで優秀そうに見えます。実際そのようです。そして昨年にはミスユニバース北海道大会で本学の学生が優勝し全国への切符をつかんだそうで、ジーパン姿の女子学生しか思い出せない私

には感動ものでした。唯、近年の仕送る親の所得の低迷で、以前は大学院に進学していた学生も、大学などが何らかの手を差し延べなければ不可能な場合が出て来ているので、大学基金への協力を幅広く呼びかけているとの事です。大学も親も学生も大変な時代のようなのです。

ところで、私は地元出身なので中学・高校のクラス会・同窓会によく出席するのですが、いつも同じ様な顔ぶれの『そこそこ幸せオーラ』を発している人達の集まりは、それなりに楽しくはありますが…。一方、大学支部の集まりは転勤族も多く、年齢も出身地も様々、懐かしい人だけでなく、職場関係は別として、近所に居ても名前と顔が一致しなかった人、初めて知り合える人も多いです。そして同窓の先輩は自分の未来の姿であり、同年輩は自分が歩んでいるかもしれない別の姿、後輩は過去の自分の姿であると思えば、色々な人が新鮮に見えて得した気分になります。

時間があつたら是非、支部の集まりに顔を出して見て下さい。

北海道上川支部の近況

上川支部長

中村 忠雄

(昭和40年総合農学)



上川支部は、22市町村からなる上川管内を一円とした約270名で構成している同窓会であります。

この広範囲な地域の会員の交流を進めるためには、会員名簿の整備が必要であると考えております。名簿の整備は同窓会開催年に行っております。

今年は2年ぶりの同窓会開催を協議する為、去る6月6日に旭川市内の居酒屋で役員会を開催し、次の日程で実施することを決定しました。

日 時：平成29年11月11日 午後6時

会 場：花月会館（旭川市3条通7丁目）

多数の会員の出席を期待し、また以前上川に在住さ



れておられたOB会員の参加も歓迎いたします。この日の役員会終了後、杯を傾け懇親を深めました。

会員の活動状況ですが、当会理事の鈴木昇さん（昭和48年獣医卒）は、今年度、上川獣医師会長に就任されました。今後の活躍が期待されるところであります。

以上、支部の近況をお知らせ致します。

平成28年度釧路支部同窓会

釧路支部長

伊 織 正 一

(昭和32年獣医)

同窓会報には直近の支部総会の報告を考えていましたが、今年度の当支部通常総会は目下準備中で、H28年度に開催した講演・懇親会の報告とします。

昨年は、交通整備の遅れている当地方にもやっと高速道が釧路市街地の阿寒まで延伸、釧路外環状道路の一部開通もあって、物流・観光・特産品の需要増など経済効果は想像以上と報道されています。一方、7月に本道を襲った連続台風は農業に壊滅的な災害をもたらしましたが、当地方は中心部が若干ずれ、その分被害は少ない感じでした。

当支部規約ではH28年度は通常総会を開催しない年でしたが、年々総会の出席者が少なくなっていることから、それに代わる方途として新任された奥田学長と、砂川会長をお招きし、講演・懇親会を10月22日会員20名の出席で開催しました。

学長から大学の沿革・歴史、学科改編・連合大学院、獣医学教育の国際認証、博士課程設置の取り組み、また将来を見据えた経営方針など、学術面では碧雲寮の生活から現在に至る往年の学術研究の数々、更に最先端技術の生殖機能のメカニズムなど広範多岐に亘る内容を学術用語以外は平易な論調で分かりやすく、会員と大学・学長との親近感を強める良き機会であったと感じ、所期の目的は達成できたのかなぁと思いました。

来賓として砂川会長・岸本局長から各地の会員の様子、大学と同窓会・会員との連携強化方策などの話題がありました。



懇親会は来賓を囲み、若き会員のもり上げもあって盛大でした。

私的なことで恐縮ですが今年度の通常総会（H29年7月末開催予定）を以って支部長を辞することになりました。支部会員並びに関係各位より戴いた多大なるご指導ご協力に厚くお礼を申し上げ、大学ならびに同窓会の益々のご発展・ご繁栄を祈念致します。

関東同窓会の近況

関東支部長

澤田 拓 士

(昭和45年獣医)



まずもって、近年の災害で今なお復興に奮闘されている幾多の地域の同窓にお見舞いを申し上げます。

本年の関東同窓会総会は6月17日（土）午後5時半から銀座ライオン7丁目店において会員73名が出席し、大学から奥田潔学長（52V）並びに野並雅章基金・広報戦略室長、同窓会本部から砂川敏文会長（45G）の来賓3名のご臨席を賜り盛大に開催されました。

初めに、近時に逝去された6名の同窓に対し黙祷が捧げられました。その内の一人、故渡部憲嗣副会長（32V）は永年に亘り総会・懇親会や幹事会の会場などの世話を始め本会に多大の貢献をされました。

総会は細川幹事長（48V）の司会の下、会長挨拶の後、各務副会長（35D）の議事進行で各議案が原案通り承認されました。また、個人情報保護法の改正に伴う会員名簿掲載情報の取り扱い方針が緊急提案され、幹事会で詳細を検討することとなりました。

総会后「大空への道」と題して間野正彦全日空（ANA）国際線機長（H2T H5MT）の講演があり、大変貴重で興味深く、また夢を感じる話をして頂きました。

引き続いての懇親会では、まず奥田学長から配布頂いた「帯広畜産大学の取り組み」や新聞各紙掲載の情報を含めて大学の現況を報告して頂きました。基金が増加した嬉しい話は、未だ寄付を果たさずの吾が身としては耳が痛くなりましたが、いずれ恥を晴らさねばとの気持ちです。続いて砂川同窓会会長からは最近の同窓の活躍が広範化しており、特に女性の活躍が目覚ましいとの紹介がありました。

宴は久しぶりの再会に旧交を温め、また新交が育まれる中、恒例のプロのコラスグループによる歌が響き渡り、最後は歌手の方達と共に全員で“帯広畜産大学逍遙歌”の大合唱となりました。その後、出席された新加入の方々に自己紹介を兼ねて近況報告して頂くなど、各テーブルを超えての懇親も大いに盛り上がり、あっという間にお開きとなりました。

次回は平成30年6月9日（土）銀座ライオン7丁目店で開催の予定です。特別講演として国立極地研究所の神田啓史名誉教授（44D）に南極の話をして頂くことになっています。

大変喜ばしいことに、昨年に続き今回も平成卒及び女性の出席者が増えました（平成卒14名、女性6名）。これからも地道で継続的な情報発信が事務局からはもちろん、同窓各位からも重要と考えています。

新潟県支部の近況

新潟県支部長

佐藤 将 典

(昭和46年獣医)

新潟県支部（帯広畜産大学新潟県同窓会）では、昨年（平成28年）11月5日に、新潟市JR新潟駅前のラマダホテルで2年ぶりに同窓会を開催しました。当日は、事務局で把握している県内在住の卒業生52名のうち19名の出席が得られました。また、はるばる遠路、大学から来賓として、奥田潔学長はじめ、岸本正同窓会事務局長、野並雅章基金・広報戦略室長の3名、出席いただきました。

冒頭、奥田学長からのあいさつの中で、畜大を取り巻く情勢、とくに財政面で、国（文科省）からの交付金も減額されているので、大学の運営が厳しくなっている旨のお話がありました。

その後、事務局担当の遠山潤幹事長（昭63獣院）から事務的な報告・連絡事項の説明があり、役員改選をしました。その結果、楠原征治前会長（支部長、昭40獣医）の後任に佐藤、副会長に不二崎順二（昭49獣医、留任）、藤田毅（昭54酪農、新任）の両会員、幹事長に遠山会員（留任）が選任されました。

役員改選後に、メインイベントでもある懇親会に移りました。懇親会では、出席会員から近況の報告があり、それぞれ卒業後に携わってきた仕事のこと、定年退職後の過ごし方とか、帯広・十勝の学生時代の思い出なども含めて、皆さん語り合い、相互の親睦を深めました。

宴たけなわとなった懇親会の最後には、恒例となっ



た本県出身の名畑武男大先輩（昭22獣専、平成27年1月2日逝去）が作詞された「帯広畜産大学逍遙歌」を全員で声高らかに歌って、次回の再会を期して終了となりました。

当日の出席者（敬称略）：伊藤道秋（昭38総農）、楠原征治、佐藤将典、不二崎順二、鷹津秋生（昭52酪農）、石田秀史（昭53獣医）、藤田毅、渡邊大成（昭55獣医）、佐藤克之（昭56工学）、石川順二（昭56環境）、遠山潤（平2獣医）、宮腰温子（旧姓堀川、平3生産）、里麻啓（平9獣医）、曾田恒彦（平11獣医）、曾田弘子（旧姓近藤、平11管理）、水落康友（平13管理）、三井元之（平13管理）、村越稔泰（平14獣医）

岡山県頑張らねば

岡山県支部長
進 藤 省 一 郎
(昭和36年酪農)



岡山県支部の活動はゆるやかで申し訳なく思っております。2016年度は岡山県支部から奥田学長を送り出せましたので誇りに思い喜びのうちに開催する事が出来ました。奥田学長は意志が強く、品位があり、ひかえ目で恥じらいを文化としている面があり、本当に畜大卒かいな。女子学生が50%もいる現在にお似合いだ。私の時代は全学に女子数人で、まぶしくながめたヨ。平成生まれの同窓会参加者もあり、毎年開ける様に努力したいと思ひ。

話が飛びますが、加計学園獣医学部新設の件に関して、私が岡山に住んで居るので、仲間に「お前が馬鹿するからこんな事に成るんだ」と云われ、ちょっと待て。猫も犬も牛も馬も居ない今治に動物実習も実験も不要の獣医を作ってどうするんだ。国家試験を変えるんか、と云われ本当にそう思う。安倍に云え手紙を書けと云ったとききました。怒る仲間がいるのを嬉しく思っている次第。

話が飛びますが、ネパール、ヒマラヤのちょっと良い話。ヒマラヤの子供達に絵と音楽指導プロジェクトが東京に有りまして、その一員として6回行ってきました。その間に鶏や豚を見えています。初産4-5頭のヒマラヤ豚の子数を増やす指導をして喜ばれたりして自己満足。一昨年ヒマラヤに大地震がありました。ネパールにはお金を配る組織が有りません。現地にお金を届けました。義援金は聞いたことがなく家が崩れ天上が出ているのに私は耐えられるから、困っている人に廻して上げてという方に何人か会いました。ナマステ！サンガイ・ジュナゴラキ（皆で生きる為に）。チベット仏教の流れか、心にジインと来ます。

電気もガスも水道も無く、物々交換が住民の生きる

道。助け合わなければ生きていけないのです。厳寒-30℃前後、純粋な気持ちの方が多く再び行きたくなる所。60年前の畜大生に戻れるところです。

素晴らしい話がたくさんありますが次回にね。

帯広畜産大学同窓会愛媛県支部近況報告

愛媛県支部長
佐々木 英 一
(昭和49年酪農)

昭和63年先輩諸氏の肝いりで、愛媛県在住の畜大卒業生による県人会を一度立ち上げたにもかかわらず、小生の無精のせいで平成4年以降長く活動を休止しておりました。このような中、同窓生多数から今一度県人会の再開という機運が上がり、平成27年、最年長の石本先輩（獣医昭和35年卒）には特に再開を促され、同窓生多数の賛同のうえ同窓会愛媛県支部として再スタートすることとなりました。特に再スタートにあたり名簿の作成、参加者の出欠確認、会場の段取り等何から何までお世話頂いた菊澤氏（酪農昭和56年卒）には感謝であります。そのような中で不肖私が初代？支部長に推挙されましたのも、今後ははっきり愛媛の畜大同窓会を引き継いでいけとの叱咤激励であったと思っております。現在は愛媛県在住の同窓生の数も格段に増え、世代間のギャップも少し感じられるところがありますが、久しぶりの再会は、畜大の進取の学風というものが未だに失われていないこと、特に参加していただいた皆さんと共に畜大逍遙歌を「本当」に「本当」に久しぶりに唱和したときは、あの帯広の地のわが母校畜大にタイムスリップしたごとく、懐かしく、また、「これぞ畜大生」という郷愁に誘われました。出席者全員がおそらく在りし日の現役畜大生に立ち戻り、逍遙歌を歌っていたものと確信しております。

長らく愛媛県人会というものを休止しておりましたが、今後は、畜大同窓会の愛媛県支部として地道に長く活動してまいりたいと思っておりますので、畜大卒業



生の皆様方には倍旧のご指導，ご鞭撻のほど宜しくお
願い申し上げ，愛媛県支部の近況報告とさせていただきます。

なお，我らが同窓生，宮脇馨氏（化学昭和50年卒）
が平成28年11月愛媛県上島町長に当選・就任されてお
りますことをこの紙面をお借りしご報告させていただきます。祝！

会員の声

持続的な酪農経営への 貢献を目指して

よつ葉乳業株式会社 酪農部
資源環境農学専攻 経済学コース 1年
橋本 亜見
(平成24年国際協力ユニット卒)



この度、同窓会報に寄稿させていただくこととなり、
感謝申し上げます。

私は幼少の頃より、食に関わる分野で国際社会に貢
献したいという思いを抱いており、故郷鹿兒島を離れ、
北海道十勝にキャンパスを置く帯広畜産大学に進学し
ました。進学後は、畜産科学課程国際協力ユニットと
農業経済学ユニットに在籍し、食の生産から食卓に至
るまでの過程について、経済学を中心とする社会科学



的なものの見方や調査手法を学ぶことができました。

卒業後は大学で得た学びと経験を国際社会で生かし
たいと考え、2012年から開始した「パラグアイ／帯広
- JICA協力隊連携事業」に参加し、約2年間南米
パラグアイの酪農振興に携わりました。プロジェクト
長期計画策定、酪農実態調査、調整業務等を担当しま
したが、事業初年度でもあり、また文化や言語（スベ
イン語）も異なる中、手探りで模索する毎日でした。
苦勞することも多かったですが、ホストファミリーや
友人、関係者の方々に支えられ、今後の人生の指針と
なる貴重な経験をさせていただきました。

帰国後、日本の原乳基盤である北海道の酪農につい
て、知識を高め持続可能な酪農の発展に貢献したいと
いう想いが募り、よつ葉乳業株式会社に入社しました。
酪農部に所属し、3年目を迎える現在は、主に生乳生
産基盤強化に係る事業に携わっています。特に次世代
の酪農家向けの研修事業では、平成27年より産学連携
共同研究として「帯広畜産大学デイリースクール」を
実施しています。この研修は講義と実習を通し酪農基
礎知識の習得を目的としており、2泊3日短期集中型
の研修として開催しています。

生産者の方がイキイキと日々を送れるよう少しでも
尽力したいと考え、自身の力をより高めるため、今年
の4月からは社会人として帯広畜産大学大学院に進学
し、酪農経営分析に関する研究を行っています。今後
も帯広畜産大学生としての誇りを胸に、北海道酪農へ
貢献できるよう精進して参ります。 以上



憧れの海外留学： 楽しいか苦しいか 行ってみて判ったこと

岩手大学大学院連合
農学研究科1年

松下 耕基
(平成27年国際協力ユニット卒)



私が海外へのあこがれを抱いたのは、帯広畜産大学の国際協力ユニットへの所属時である。学部3年時に国際協力ユニットメンバーとしてタイでの研修に参加した。現地の農家、企業の職員、学生との交流を通じて異文化交流と海外留学に強くあこがれを持ち、いつか長期海外留学に行きたいと思った。しかし、それと同時に海外で研究を行うためには自身の英語力では不十分であると感じ、結局学部時には留学をすることはできなかった。

いつか海外へ行ってみたいという気持ちを抱きながら、帯広畜産大学の修士課程へと進学した。専門の食品工学分野の研究の傍らで英語の学習を継続して行っていた。そんな中、海外行けるかもしれないチャンスが舞い込んできた。それが「トビタテ留学 JAPAN プロジェクト」である。これは日本政府が企業の寄付を募り、日本の大学生の海外留学を支援し、将来的に世界で活躍するグローバルリーダーを育成することを目的とした国家プロジェクトである。海外大学への留学や企業へのインターンシップ、ワーキングホリデー



など活動内容に関して制限はあまりなく、自分がやりたい留学ができる自由度が高い奨学金制度である。私はこのプロジェクトへ応募するため、自分で受け入れ先を見つけ、書類審査、面接をクリアし修士2年時にアメリカの大学へ7か月間、ケニアの大学へ3か月間、それぞれ客員研究員と交換留学生として留学した。

ずっとあこがれていた海外での生活。どんなに楽しいことがあるのだろうと期待していた私だったが、実際の海外生活は楽しいことばかりではなかった。まず直面した問題は言葉の壁である。留学前にも日本で英語の勉強をしていたが、やはりネイティブの会話の速さについていくのは困難だった。友人の会話に入るこ

とができず、自分の意見や考えがうまく言えないことのストレスと自分の英語力不足に悔しさを感じるが多々あった。その経験をバネに毎日ひたすら勉強した。留学の半年が過ぎたころ、自分の英語力の変化を強く感じる事ができた。ネイティブスピーカーの会話を聞き取り、自分の考えを瞬時に発することができている自分に気づいた。一時期はストレスを感じ、避けようと思っていた英語を楽しめるようになったのである。

もう一つ直面した問題は、文化の壁である。ケニアでの3か月間は留学生同士でルームシェアをして生活していた。ドイツ、ポーランド、オーストリア、チェコ、ベルギーなど多くの国出身の留学生と生活していた。共同生活には小さな問題がつきものである。自分のものを勝手に使われる、約束や時間を守らない、勝手に友人をシェアハウスに呼び夜通し騒ぐなど、ほぼ毎日小さな問題が生じていた。しかし、我慢をしないで自分の意見を言い、他者の意見をしっかり聞くことにより、解決策を導き出すことができた。たとえ国籍や年齢、バックグラウンドや価値観が違っていても、しっかりと話し合っただけ時には意見をぶつけ合うことで互いを分かり合うことができるということを学んだ。

約1年間の留学は、私にとってかけがえのない経験となった。留学へ行く前に親身に相談に乗ってくれた先生や友人、先輩方のおかげで多くのことが経験できた。留学中に不安を抱えたり、困ったときには必ず助けてくれる人がいた。帰国した後も連絡を取り合うような友人もたくさんできた。きっと彼らには留学に行かなければ出会うこともなかっただろうし、彼らと出会わなければ今の自分はないと思う。きっと今度は私がこれから留学へ行こうとしている学生の背中を押す番だと思う。そして、留学への不安を抱えている学生の手助けをしていきたい。現在私は、岩手大学連合農学研究科に所属し研究を行う傍ら、北海道の留学を盛り上げるため学生向けの留学支援活動を行っている。一人でも多くの学生が留学を通してかけがえのない経験をしてくれることを願い、これからも活動を続けていきたい。



Topics

美濃羊輔名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました

平成28年秋の叙勲の受章者として、本学名誉教授美濃羊輔氏が瑞宝中綬章を受章されました。美濃先生は、教育研究功労者として、牧草の再生に関する生理学的な研究を行い、草地の維持管理に必要とされる基礎的概念を確立された功績により、昭和63年に日本草地学会賞（斎藤賞）を受賞されました。

また、学内共同教育研究施設として平成8年に設立された地域共同研究センターのセンター長を設立当初から務め、様々な産官学連携の強化や産業クラスター形成事業のコーディネートに尽力され、センター長として活躍されました。

この度の受章は、これらの功績に対し受章されたものです。栄えある叙勲を受けられましたことをお祝い申し上げます。



本学環境農学研究部門梅津一孝教授らの研究チームが日本畜産学会優秀論文賞を受賞

3月27日（月）から30日（木）まで神戸大学において開催された、第122回日本畜産学会において、本学環境農学研究部門梅津一孝教授らの研究チームが日本畜産学会優秀論文賞を受賞しました。

梅津教授の受賞論文題目は「The survival of multidrug-resistant bacteria in thermophilic and mesophilic anaerobic co-digestion of dairy manure and waste milk」で、現在十勝でも盛んに行われているバイオガスプラントにおいて、乳牛の排せつ物と乳房炎治療中の廃棄乳をエネルギー化する際の薬剤耐性菌の死滅効果について、温度別に検討し、バイオガスプラントによる嫌気発酵処理は、有害細菌の死滅効果とともに多剤耐性菌の減少にも寄与し、衛生環境の向上に貢献することを明らかにしました。



受賞した梅津教授と共著者の岩崎匡洋特任研究員(右から)



総会のご案内

平成29年 8月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会会長

砂川敏文

平成29年度の帯広畜産大学同窓会総会を下記の要領で開催いたします。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

記

日 時：2017年10月7日(土) 午前11時より

場 所：帯広畜産大学 総合研究棟 I 号館 E2503会議室

(正門から入り正面の建物です。玄関から入り正面階段を上がり2階右側です。)

今年はホームカミングデーが開催されるため場所が会議室となっておりますのでご注意ください。また、例年開催しております懇親会は、ホームカミングデーでの開催となります。

同窓十勝会例会のご案内

同窓十勝会では、以下のとおり例会を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：平成29年10月7日(土) 午前10時30分から
場 所：帯広畜産大学 総合研究棟 I 号館 E2501会議室
問い合わせ：小池 寿 (0155-24-2133)

上川支部同窓会のご案内

上川支部同窓会では、以下のとおり例会を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：平成29年11月11日(土) 午後6時から
場 所：花月会館(旭川市3条通7丁目)
問い合わせ：上川支部事務局 高橋 勉 (0166-51-7066)

オホーツク支部同窓会のご案内

オホーツク支部同窓会では、以下のとおり例会を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：平成29年11月18日(土) 午後2時から
場 所：ホテル黒部 北見市北7条西1丁目
参 加 費：7,000円(懇親会費 6,000円、支部同窓会費 1,000円)
問い合わせ：オホーツク支部事務局 河原 康司
(090-8895-0458, yasushi@train.ocn.ne.jp)

お 詫 び

終身会費をお支払いいただいているのにかわらず、住所変更ハガキに「終身会費未納」となっている場合があります。原因はまだ特定できていませんが、大変ご迷惑をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

赤 沢 宗 平 (S19年 獣医畜産)	加賀谷 芳 夫 (S30年 獣医)	伊 原 徹 (S42年 農業工学)
中 野 泰 栄 (S19年 獣医畜産)	櫛 引 誠 一 (S31年 酪農)	佐 藤 克 裕 (S42年 農業工学)
松 野 繁 雄 (S19年 獣医畜産)	倉 本 公 雄 (S31年 酪農)	志 村 武 雄 (S42年 獣医)
曾 我 豊 三 (S20年 獣医畜産)	鈴 木 敏 彦 (S31年 酪農)	干 場 秀 雄 (S42年 農業工学)
小 川 薫 (S22年 農専獣医)	高 見 宏 彦 (S31年 酪農)	吉 井 栄 治 (S42年 酪農)
鈴 木 一 正 (S22年 農専獣医)	武 田 秀 雄 (S32年 総農)	上 野 悟 (S45年 獣医)
山 田 昇 (S22年 農専獣医)	長 岐 勇 作 (S32年 酪農)	島 田 陽 一 (S46年 獣医)
川 口 一 盛 (S23年 農専獣医)	渡 部 憲 嗣 (S32年 獣医)	佐 藤 健二郎 (S49年 農業工学)
村 瀬 博 (S23年 農専獣医)	曾 我 章 道 (S33年 獣医)	土 肥 伸 行 (S50年 草地)
浦 山 勉 (S24年 農専酪農)	小 林 張 男 (S35年 酪農)	竹 井 宏 一 (S54年 農業工学)
新 名 剛 (S24年 酪農)	白 川 博 久 (S36年 獣医)	町 田 高 敏 (S54年 環境)
富 沢 舜 (S24年 農専獣医)	佐々木 修 (S37年 草地畜産専修)	渋谷 雄 二 (S59年 草地)
渡 邊 崇 (S25年 農専酪農)	篠 田 繁 彦 (S37年 草地畜産専修)	南 部 悟 (旧教官)
吉 田 尚 (S26年 農専農学)	塚 本 達 (S38年 酪農)	西 島 浩 (旧教官)
鈴 木 顕 一 (S28年 獣医)	辻 秀 子 (S40年 酪農)	

*2016年11月から2017年6月までに、本部事務局にご連絡をいただきました。

協 賛 廣 告 の ご 案 内

来期の同窓会報より協賛広告を掲載いたします。来期は2018年11月頃に発行する予定です。自分の会社をお持ちの方！会社のトップの方！その他の方！協賛広告受付は2018年9月30日(日)が締切日です。多数の申込を、お待ちしております。

大きさと掲載料は下記の通りです。

1 枠：タテ40mm × ヨコ180mm

10万円 (本校卒業生は5万円)

1 / 2 枠：タテ40mm × ヨコ85mm

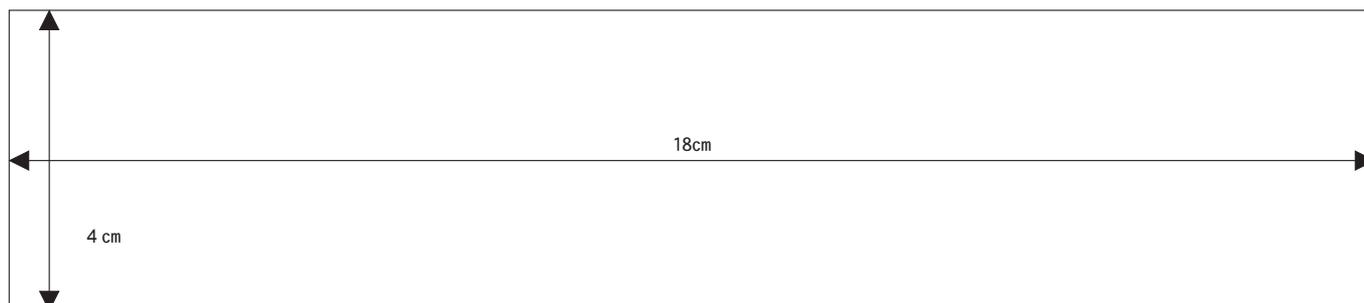
6万円 (本校卒業生は3万円)

なお原則として、申込み1件につき、会報10部を贈呈致しております。広告料金のお支払いは、名簿と共に郵便振替用紙を送付させていただきますので、後日振り込みをお願い致します。

申込先：080-8555 帯広市稲田町 帯広畜産大学
岸本 正

電 話：0155-49-5522 FAX：0155-49-5522

E-mail：tksm@obihiro.ac.jp



事務局だより

逍遙舎の使用について

「逍遙舎」は、同窓会員、職員、学生が相互の懇親などの交流の場として使用できます。利用を希望される方は、大学総務課にお申し込みください。

問い合わせ先 総務課総務係 49-5216
(平日 8:30-17:15)

HP <http://www.obihiro.ac.jp/alumnus/syouyousya.html>

同窓会事務について

同窓会事務局は、事務職員の配置を取りやめ、その作業を帯広畜産大学生協に委託しております。なお、電話、FAX等は、これまでと同様ですので、お問合せは下記にお願いします。

同窓会事務局 (平日8:30-18:00)
〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地
帯広畜産大学内
Tel 0155-49-5996 FAX 0155-49-5996
E-mail dousou@obihiro.ac.jp
HP <http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/>

本学同窓会の終身会費の徴収方法について

現役学生の保護者の皆様へ

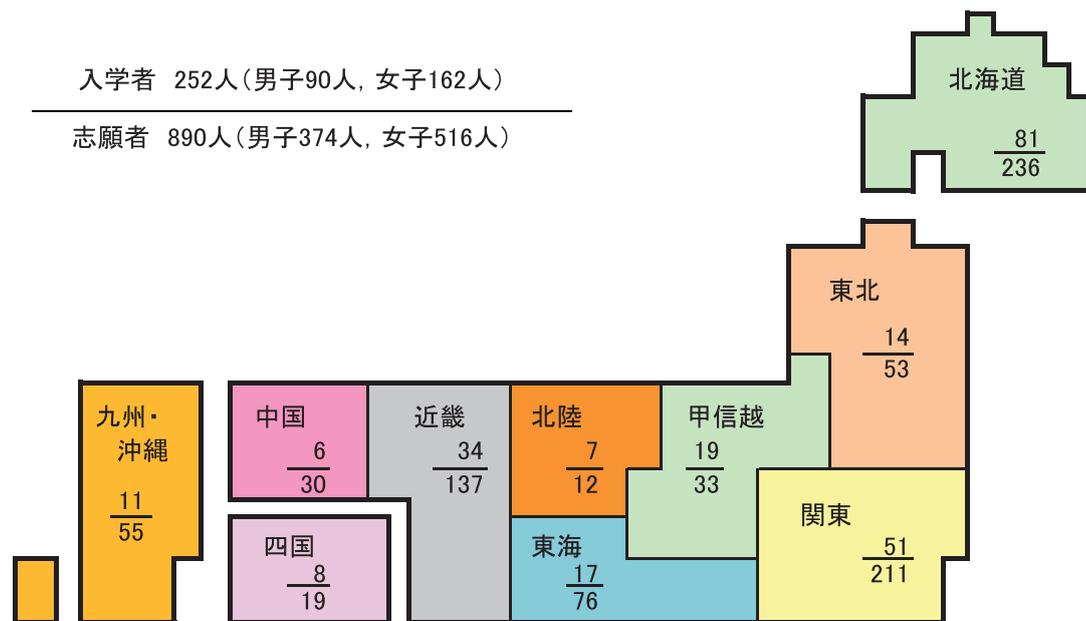
これまで帯広畜産大学同窓会では、会費の徴収方法として、入学時に入学者の皆様から同窓会への協賛金としていただき、卒業の時点で同窓会会員となった時にその会費を終身会費に変更させていただいておりました。しかし、その煩雑性と他の大学の状況を見たとき、現役学生も入学した時点において準会員の資格を与え、その結果として、入学時に終身会費をいただくことといたしました。なお、特別な事情で、途中で大学を去る場合においては、本人からの申し出において、終身会費を返納することは、従来と変わっておりません。また、本年度からは、入学時に同窓会に住所開示の許可をいただいた保護者の皆様には、同窓会報の発送も行い、本学同窓会の活動をご覧になっていただくことにいたしました。このような事情で、本年度より、現役学生の保護者様にも同窓会会報を発送いたしましたので、お気づきの点がありましたら、事務局までご一報ください。

また、本学の卒業生は、全国に散らばっており、現役の学生諸子の就職時にも、色々な分野の諸先輩の方々のお力も拝借できる体制となっております。その旨、ご子弟にお知らせいただき、同窓会事務局の先生方に連絡いただければ、全国の各支部に問合せを行うことも可能ですので、そのような観点からも同窓会を活用していただければ幸いです。

◆ 平成29年度学部地域別志願者・入学者状況

入学者 252人(男子90人, 女子162人)

志願者 890人(男子374人, 女子516人)



その他

高卒認定試験	2/7	外国の学校等	2/20	文部科学大臣の指定した者	0/0	認定	0/0	在外教育施設	0/1	専修学校高等課程	0/0
--------	-----	--------	------	--------------	-----	----	-----	--------	-----	----------	-----

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成7年10月14日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂
平成25年10月5日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
2. 同窓会名簿の管理
3. 帯広畜産大学の後援
4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会は次の会員を持って組織する。
1. 正会員
1) 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
2) 帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
3) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したもの
4) その他代議員会で認めたもの
2. 準会員
帯広畜産大学、大学院畜産学研究科、草地専修科、岐阜大学大学院連合獣医学研究科および岩手大学大学院連合農学研究科の学生
3. 特別会員
帯広畜産大学およびその前身の同窓生以外の教員
第6条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。
第7条 会員の除名および資格の喪失
1. 本会の名誉を傷つけたり、本会の目的に反した行為を行った会員は、代議員会の決議により、除名とする。
2. 当該会員が死亡したときは、その資格を喪失する。

第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局長1名、庶務担当3名、会計担当3名、名簿担当3名および監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員および代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を

補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

- 第12条 事務局長は庶務担当役員と共に会務を担当する。
第13条 会計担当役員は会費を徴収し、本会の資産の管理と予算の適切な執行を担当する。
第14条 名簿担当役員は同窓会名簿の管理を担当する。本役員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
第16条 役員会は会長が召集しその議長となる。本会は構成役員の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。
第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
第18条 代議員会は会長が召集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
2. 会費の変更
3. 重要な資産の処分
4. その他の重要な事項

第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、または10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。
第21条 総会は会長が召集し、その議長は会員中より総会で選出する。
第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
2. 役員人事
3. 資産目録
第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
第26条 会員は終身会費として入学時に20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。なお、準会員については、何らかの事情で中途退学した場合、本人からの請求があれば返金するものとする。
第27条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第28条 本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。
第29条 支部を設置しようとする者は、その代表者から支部会則、役員等の資料を添えて本会に届け出なければならない。なお、支部活動については、支部会にゆだねるものとする。

付 則 この会則は平成25年10月5日から施行する。